

研修カリキュラム

1) 専門知識

1. 基礎知識	達成レベル
1 炎症性腸疾患専門医の役割	
2 炎症性腸疾患の歴史	
3 炎症性腸疾患の分類（VEO-IBDを含む）	
4 炎症性腸疾患の疫学	
5 炎症性腸疾患の社会的および経済的影響	
6 炎症性腸疾患の病因・病態学	
7 社会保障制度	
8 消化管の構造と機能	
9 腸管免疫・免疫細胞とサイトカイン	
10 腸管免疫・免疫細胞のトラフィッキング	
11 上皮の分化と再生	
12 発癌	
2. 臨床的知識	達成レベル
1 腸管症状	
2 全身症状（発熱、疲労、食欲低下、体重減少、成長障害等）	
3 肛門病変	
4 関節	
5 皮膚	
6 眼	
7 肝胆膵	
8 血管	
9 その他の臓器障害	

2) 専門技能

専門医としての診療技術

1. 炎症性腸疾患の診察		達成レベル
1	腹部症状	
2	全身症状	
3	肛門症状	
4	腸管外症状（関節・皮膚炎など）	
2. 炎症性腸疾患の検査		達成レベル
1	一般臨床検査	
2	免疫血清学的検査	
3	便検査	
4	尿検査	
5	遺伝子検査（NUDT15等）	
6	大腸内視鏡検査	
7	上部消化管内視鏡検査	
8	小腸内視鏡検査	
9	カプセル内視鏡検査	
10	病理組織学的検査	
11	MRI	
12	CT	
13	超音波	
14	消化管造影検査	
15	疾患活動性スコア	
16	患者による疾患評価	
17	QOL指標	

3. 炎症性腸疾患の診断と治療方針		達成レベル
1	潰瘍性大腸炎	
2	クローン病	
3	腸管外合併症	
4	回腸嚢炎	
5	短腸症候群	
4. 炎症性腸疾患の治療（手術・処置技術を除く）		達成レベル
1	5-ASA製剤	
2	ステロイド	
3	チオプリン製剤	
4	カルシニューリン阻害剤	
5	抗TNF α 抗体	
6	JAK阻害薬	
7	インテグリン阻害薬、抗インテグリン抗体	
8	抗IL12/23抗体、抗IL23抗体	
9	S1P受容体調節薬	
10	血球成分除去療法	
11	栄養療法	
12	GLP-2アナログ製剤	
13	在宅中心静脈栄養	
14	在宅自己注射指導	

専門医としての手術・処置技術		
1. 炎症性腸疾患の外科的治療・内視鏡治療		達成レベル
1	特徴、手術適応（手術の時期）	
2	術前・術後管理	
3	目標、評価法	
4	手術の種類	
5	手術の合併症	
6	腸管の手術	
7	肛門病変の手術	
8	内視鏡的狭窄拡張術	
9	内視鏡的切除術	

3) 学問的姿勢

	達成レベル
1 炎症性腸疾患に関する学術発表、論文発表などを定期的に行う	
2 院内・院外の症例検討会への参加	
3 日本炎症性腸疾患学会および基本学会への参加	
4 日本炎症性腸疾患学会が主催する教育セミナーへの参加	
5 Evidence-based medicine (EBM)	
6 指導者として求められる活動	

4) 医師としての倫理性、社会性

	達成レベル
1 患者とのコミュニケーション能力	
2 患者中心の医療の実践	
3 患者から学ぶ姿勢	
4 自己省察の姿勢	
5 医の倫理への配慮	
6 医療安全への配慮	
7 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）	
8 地域医療保健活動への参画	
9 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力	
10 後輩医師への指導	

炎症性腸疾患専門医カリキュラム 目標レベル基準について

1) 専門知識

1. 基礎知識		
目標レベル	A	内容を詳細に理解している
	B	概略を理解している
2. 臨床的知識		
目標レベル	A	内容を詳細に理解している
	B	概略を理解している

2) 専門技能

1. 炎症性腸疾患の診察		
目標レベル	A	一人で所見がとれる
	B	指導を受けて所見がとれる
2. 炎症性腸疾患の検査		
目標レベル	A	検査の目的・適応を理解し、自分で実施し、結果を判断し、診療・治療に役立てることができる
	B	検査の目的・適応を理解し、オーダーし、結果を判断し、診療・治療に役立てることができる
	C	検査の意義、適応に関して概略を理解し、説明できる
3. 炎症性腸疾患の診断と治療方法		
目標レベル	A	原則として経験すること（担当医として受け持つ）
	B	指導医のもとに経験すること（共同でもよいから受け持つ）
	C	概略の知識を有すること（見学することが望ましい）
4. 炎症性腸疾患の治療（手術・処置技術を除く）		
目標レベル	A	原則として経験すること（担当医として受け持つ）
	B	指導医のもとに経験すること（共同でもよいから受け持つ）
	C	概略の知識を有すること（見学することが望ましい）
5. 専門医としての手術・処置技術		
目標レベル	A	自身で術者として施行することができる
	B	第1助手として手術を施行することができる
	C	既略の知識を有することを求められる処置技術
	D	自身では施行しないが、方法の概略、適応、合併症などを説明できる。

3) 学問的姿勢

目標レベル	A	内容を詳細に理解し、実践できる
	B	内容を理解し、指導者の下で実践できる
	C	概略を理解している

4) 医師としての倫理性、社会性

目標レベル	A	内容を詳細に理解し、実践できる
	B	内容を理解し、指導者の下で実践できる